

本文の無断転載を禁じます

佳作

どこか行く舟

室屋和美

登場人物 (男1・女1)

太田哲二 (てつちゃん)	三十六歳	運送会社勤務
柳由香子 (ユキ)	三十五歳	郵便局アルバイト

■あらすじ

由香子の住む古いアパート。そこは孤独に支配されている。

彼女は郵便局で配達の仕事をしてながら、やりくりのことばかり考えている。生活費欲しさに始めた売春行為は、いつのまにか自尊心の回復手段になっていた。お金で割り切れる関係は、居心地はいいが何の生産性もない。

ある日、由香子は哲二に出会う。哲二が由香子を買ったのだ。

人から見れば幸せな家庭かもしれない。

それでも俺には何かが足りないし求められたいのだ、と彼は言う。

哲二はどかどかと由香子の生活に踏み込んでゆく……。

暗闇。

ぼつんぼつんと、小さな灯りがいくつか見える。

由香子が小さな舟を手にして立っている。

それは、簡素なつくりのもの。灯籠。

モノローグ。

この舟はどこへ行くんだろうか。そもそも水面にぎちんと浮くのだろうか。くるくる風にあおられて回り続けやしないだろうか。どこへもぶつからずに無事に岸へ辿り着けるのだろうか。誰かに拾ってもらえるのだろうか。私は心配になる。波にもまれないだろうか壊れやしないだろうか沈みはしないだろうか。私は心配するふりをする。帰って来るなよ。どこまでも行ってしまう。できるだけいい人に拾われる。できるだけ遠くまで行くんだよ。私は送り出す。そつと水面に置いてくる。この舟がどこか遠くの街で旅をする、そのイメージを描いてみる。青空。夕焼け。どこか知らない田舎とか都会とか。おいしい空気の良い場所。

でも、たいがいそれはうまくいかない。この舟が、沈んでしまうイメージしか湧いてこない。海底。どろどろ。変な、名前もわかんないような赤い海藻。水は濁って、飲んだらしょっぱい味。雨に打たれて火は消えて、ヘドロの岸にさしかかる。そのうち元はなんだろうこれ、つていう木と紙のよくわかんないのになつて。

私はそれを思い浮かべてにこにこする。そんなもんだよね。笑ってしまう。私の舟。私はこんな舟には乗りたくない。どうせ乗るなら大きな船がいい。鉄で出来て、立派な甲板があつて、大きな食堂がついてるやつ。よく働く船長さん。よく働くコックさん。よく働くガイドさん。行け行け船。たくさん乗ってけお客さん。この船ならどこまでも行ける。どこまでも行けるんだ。安全安心どこまでもどこまでもどこまでも。いろいろ考えてみたら、結局私にはこんな舟は必要ないので、捨てることにしました。

哲二がのそつとやってくる。

由香子は舟を手渡す。

由香子 はい。これ。

哲二 なにこれ。

由香子 ふね。いいでしょ。

哲二 うん：なんかいい感じ。

由香子 立派でしょ。

哲二 うん。ユキちゃんがつくつたの？

由香子 うん。いいでしょ。

哲二 まあ、なんか、すごくいい。

由香子 わかる？さすががつちゃん。

哲二 いや。

由香子 灯籠だよ。
哲二 灯籠？
由香子 うん。
哲二 へえ。(手にした舟を上げ上げ眺める)
由香子 つかいかた知ってる？
哲二 使い方って。流すんでしょ。海とか、川に。
由香子 ふうん。
哲二 なにそれ、知らないの？
由香子 ざっくりはわかるんだけど。
哲二 うっそ、うそでしょ。
由香子 だつて知らないんだもん。仕方ないじゃん。
哲二 ふねっていったの？
由香子 ふねなのはわかるんだけど。
哲二 灯籠とか言ってるの？
由香子 知らないんだから仕方ないじゃん。
哲二 ほらあれだよ。
由香子 なに。
哲二 ほら、お盆とかに。
由香子 うん。
哲二 死んじゃった人を、吊いましょう、みたいな。
由香子 ふんふん。
哲二 神様ありがとう、みたいな。
由香子 ふんふん。
哲二 じゃあ舟でも流すか、みたいな。

由香子 見えるかな？
哲二、灯りでそつと由香子を足元から照らす。
由香子 どう？
哲二 うん。
由香子 どうよ？
哲二 絶景。
由香子 そりゃよかった。
哲二 いいねえ。
由香子 これ用。
哲二 んー？
由香子 これ用の舟なの。
哲二 またまた。不謹慎。
由香子 んふ。
哲二 ん？不謹慎って使い方これでいいのかな。
由香子 それあげるよ？
哲二 別にいいよ。
由香子 いいからもらってよ。
哲二 触っちゃだめなの？
由香子 ん？
哲二 この舟置いてユキちゃん触っちゃだめなの？
由香子 だめ。
哲二 なんでよ。

由香子 なにそれ。
哲二 そういうもんだよ。
由香子 なにそのテンション。
哲二 テンションっていうか、行事だから。
由香子 ふうん。
哲二 わかんないでつくつたの？
由香子 うん。ふふ。
哲二 え？
由香子 あだね。これはね、こう使うんです。

由香子、傍にある椅子の上に立ち上がる。
ロングスカートの裾をまくってみせる。
由香子 はい。
哲二 え？
由香子 はい。どうぞ。
哲二 え、なに？
由香子 覗いてみて。
哲二 え。
由香子 それ持つて。覗いてみ。
哲二 うん。

哲二、身をかがめて下から覗きこんでみる。

由香子 そういう決まりだから。
哲二 へえへえ。
由香子 そういう行事なの。
哲二 じゃあそういうことにしようね。
由香子 うん。お願いします。
哲二 ユキちゃんは面白いなあ。
由香子 いやいや。
哲二 ほんと、面白い。変だけど。
由香子 んふ。

哲二、手にした灯籠を自分の足元に置いて、
由香子の足を抱きしめる。

哲二 ほんと、面白い。
由香子 おいつ。
哲二 ほんと、すき。
由香子 おい。てつちゃん。
哲二 ほんと、俺困るわ。
由香子 おーい。てつじさん。
哲二 どうしよう。
由香子 ……
哲二 ほんと、困る。
由香子 ……
哲二 ふー。

由香子、哲二の頭を撫でる。

由香子 うん。私もてっちゃんのこと可愛いよ。

暗転。

明転。

冬。由香子の部屋。古いアパートの一室。
テーブルと、イスが二脚。畳の部屋にカーペット。
小さな部屋。
机の上にはノートパソコンとマグカップ二つ。
どこどなく生活臭さが漂っている。
哲二と由香子が向かい合って座っている。
哲二は頭を抱えている。

哲二 いやいやいや。

由香子 うん？

哲二 いやいやいやいや。

由香子 ん？

哲二 いやいやいや、これはまずいでしょ。

由香子 なに？

哲二 いやいやいやいや。

由香子 なになに、なにがまずいの？

哲二 いやいやいや、ほんとこれはまずいよ。

由香子 ちよつと待って、ちよつと。何がまずいの？

哲二 だつてさ。

由香子 ちよつとほんとゆつてくんなきや私ほんとわかんないし。

哲二 ええ？

由香子 なに、なんか問題でもあるの？

哲二 あるでしょ。

由香子 なに。

哲二 問題あるでしょ。

由香子 なにが。

哲二 だつて、そういうことなんでしょ？

由香子 うん？

哲二 :あなた、柳さんでしょ？

由香子 うん。まあね。

哲二 ああ、俺どうしよう。

由香子 なあに、もー。

哲二 いや、だつてだつて。

由香子 だつてだつてなに。

哲二 :柳さんなんでしょ。

由香子 そうだよ。

哲二 柳ナントカさんなんでしょ。

由香子 まあ。

哲二 ここに住んでいる、柳ナントカさんでしょ。

由香子 そうですけど。なに、柳、柳つて。

哲二 俺、表札見てもしかしたら：つて思ったんだけど。

由香子 うん。

哲二 そういうことなんでしょ。

由香子 そうだよ。本名は柳だけど。

哲二 ああー、やばいやばい、これは絶対やばい。

由香子 えつ、えつ、えつ。

哲二 うん。

由香子 ちよつと待って。

哲二 うん。

由香子 ちよつと待ってね。

哲二 (黙つてうなづく)

由香子 もしかしてだけどね。

哲二 (うなづく)

由香子 どつかで会ったことある？

哲二 ない。

由香子 :だよね。

哲二 たぶん。

由香子 たぶん？

哲二 俺だつてよくわかんないもん。

由香子 なにそれ。

哲二 でもたぶん絶対そうなんだよ。柳なんて名前そんなに

いないでしょ。

由香子 そうかな。まあまあいるんじゃない？

哲二 ああでもやつば違うのかな？違うのか？俺もうよくわ

かんない。

由香子 なにそれ、私が柳さんだから悩んでるの？

哲二 んー。

由香子 なになになにに、なんの知り合い？私、あなたのこと

知ってるのかな？

哲二 たぶん知らない。

由香子 山本とか、田中とか、佐藤なら悩まずに済むの？

哲二 うー悩まない。

由香子 えー？

哲二 うー。

由香子 なにもう、ややこしいなあ。

哲二 だつてさあ。

由香子 もういいじゃん。ちよつとへんなこと言わないで普通

に話しようよ。

哲二 あなたは、な、なんの人？

由香子 俺は、つっても、

哲二 あ。もしかして。

由香子 うん。

由香子 え、仕事の、人？

哲二 (首を横に振る)

由香子 え、学校？同級生？

哲二 (首を横に振る)

由香子 え、今いくつだつて。

哲二 36。

由香子 だよね。
哲二 なに。
由香子 一コ上。
哲二 ん。
由香子 え。
哲二 おおい。
由香子 え。
哲二 あのさ。
由香子 はい。
哲二 …兄弟いない？
由香子 んんんん？
哲二 いるでしょ。
由香子 ん、うん。いますよ。
哲二 ああ、やつぱりそうだよお。
由香子 えええ？
哲二 それお兄さん？
由香子 え、そうですけど。
哲二 ほらやつぱりい。
由香子 ちよつとちよつと、なにになにに。全然わかんない。
哲二 絶対そうだ。
由香子 あの、
哲二 (うなづく)
由香子 てつてつさんは、名前はなんていうの？
哲二 それ言わなきゃまずい？

由香子 いやーできたら。
哲二 ー。
由香子 ほら、私もてつてつさんつての、ちよつと言いくいし。(言いくそうに)
哲二 てつてつさん。てつてつさん。
由香子 うん。
哲二 なんのヒントもないから。
由香子 うん。
哲二 名前聞いたら、思い出すかも知れないし。
由香子 太田。
哲二 太田。
由香子 太田てつてつ。
哲二 …下は？
由香子 てつてつ。
哲二 いやいやいやいや。もういいじゃんそこまで言ったらほとんど正体バレてるじゃん。
哲二 いいよ。もうわかつたから。
由香子 ちよつとお、何が。
哲二 あのね。考えてみてよ。もうわかるでしょ。
由香子 俺が、ユキちゃんの仕事先の人でもなくて、同じ学校だったわけじゃなかったら。そしたら何が残ってる？
哲二 ん：近所の人？んー？
哲二 わかんない？

由香子 お兄ちゃんの知り合い？
哲二 (首を横に振る)
由香子 え、お父さんの仕事の人？
哲二 だから。仕事じゃないんだつて。
由香子 よかつたあ。
哲二 え？
由香子 だつて、お父さんの仕事絡みだつたらさ、こんなのバシたらまずいもん。
哲二 …仕事知り合いではないよ。
由香子 それで私のことがバレるのは仕方がないけどさ、お父さんが変なことになつたらまずいし。
哲二 うん。
由香子 TVでラブシーン見てるのも恥ずかしそうな娘が、こんなことしてるなんてバレたらアレだし。
哲二 うん。
由香子 ま、それはアレだけど。いいんだけど。

沈黙。
カップのコーヒーを飲む由香子。

哲二 集会。
由香子 ん？
哲二 集会来たことない？
由香子 ん？

哲二 家庭集会。
由香子 ……
哲二 あ、柳さんとは開催宅だから。来るつていうか…。
由香子 ……あ！
哲二 うん。
由香子 そつか。
哲二 そそ。
由香子 あ、そうかそうか。
哲二 うん。
由香子 寺。の？
哲二 うん。
由香子 え、お寺の人なの？
哲二 そうだよ。
由香子 うつそ。
哲二 そうだよ。
由香子 うつそ。

沈黙。

由香子 ちよつと待つてちよつと待つてちよつと待つて。よしとりあえずコーヒー飲もう。
哲二 ん。(飲まない)
由香子 (飲む) うあー。

沈黙。

由香子 ごめんね安いコーヒーで。おいしくないでしょ。すっぱいでしょ。

哲二 いや、そんなことないよ。おいしいよ。

由香子 うそ。さつきから全然飲んでないじゃん。

哲二 そんなことないよ、飲んでるよ。おいしいよ。

由香子 100均で買ってきたインスタントなの？

哲二 そんなこだわりないし、俺。

由香子 冷めちゃうよ。まあ、いいんだけど。

コーヒーをぐびりと飲みきる由香子。

由香子 (笑って) ね。寺って。

哲二 ね。

由香子 びつくりだ。

哲二 ね。

由香子 え「明星の苑(みょうじょうのその)」でしょ。

哲二 うん。

由香子 まじですか。

哲二 まじもまじもおおまじ。

由香子 ええええ。：びつくりだあ。

由香子、立ち上がり哲二の背後に回る。

由香子 あのねえ。正直に言うけどね。私い、てつてつさんに

会おうか、ちよつと迷ったわけですよ。

哲二 おお。

由香子 さすがに、地元の人すぎるかなあって。もう少し遠い人の方がいいのかなあって。

哲二 うん。

由香子 これで近所のコンビニとかでばったり会ったら笑うなあって思ったし。

哲二 それは俺も思ったね。

由香子 さつきまでピンクの可愛いブラジャーしてた人が、今へんな色のジャージでおにぎり選んでるよってなつたら恥ずかしいなと思ったし。

哲二 そういつ時って知り合いに会っちゃうもん、(ね)

由香子 あれさあ、あのサイト、ほとんどみんなプロフィールなんて見てないでしょ。あれ、男性も無料？

哲二 一応ね。

由香子 みんなすごい適当なのね。今すぐ会える？とかさ。私平日働いてますって書いてるのに、月曜日に会おうよ、とかさ。読んでねーだろ！みたいなの。恐ろしく短いメッセージがくるのね。

哲二 まあまあま。そんなもんでしょうよ男は。

由香子 でも、てつてつさんは、すごいマメだったし優しい感じだったから。なんかこの人いいなあと思って。他の人と違うなあって思ってた。お手当も相談にのってくれ

るつていうし。

哲二 :それは、俺も気をつけて書くようにしてるもん。

由香子 まあでももし知ってる人が来ちゃつたら、内緒にしようつて、あなたは奥さんいて後ろめたいでしょばれたらやばいでしょ出会い系サイトやってるなんて知られたくないでしょ、つて話して帰っちゃつたらいいやと思つて。

哲二 おいおい脅しちゃうんだ。

由香子 まあそんなこと考えてて。

哲二 いや、俺も、もし知り合いだつたらやばいな、とは

思つたよ。でもまさかないよな、と。ね。

由香子 ね。

由香子、椅子に正座。

由香子 寺、かあー。

哲二 なあ。

由香子 こんなことつてあるんだねえ。漫画みたいだねえ。

哲二 ひくな。

由香子 ねえ。ひくねえ。

哲二 入信してどれぐらい？

由香子 どれぐらいもなにも、私生まれる前から信者だもん。

哲二 ああ、家族入信か。俺14年。

由香子 うわ、長いね。

哲二 うちの嫁がもともと入信してたから結婚したときにね。入ってくれて。

由香子 ああなるほどね。奥さんがね。

哲二 いちお、俺支部のリーダーなんだけど。

由香子 うそ。支部青年代表？

哲二 うん。

由香子 うそ。ちよつとなにやってんのお。

哲二 そりやもー俺も人間だし男だし。

由香子 ちよつと代表さんー。

哲二 男代表。

由香子 いやいやいや。下衆い下衆い。

哲二 こういうのなんていうのかな。非、人道的というのかな。なんだろう。

由香子 なんだろ。

哲二 :背徳感。

由香子 なにそれ、難しい。

哲二 せめて同級生だつたらなあ。

由香子 いや、それもぜんぜんまずいんだけどね。これはいいの？アリなの？禁断の関係ではないのかな。

由香子 だいたい不倫の時点でまずいじゃん。

哲二 え。がつり歩んでる？明星。

由香子 ぜんぜん。親にたまああについてくぐらい。

哲二 俺も嫁に付き合わされてる感じだけど。

由香子 なにそれそんなで代表なの？

哲二 だって俺らの支部は規模小さいんだよ？若い奴もあんまないから、嫁の推薦でなんか知らん間に代表になっちゃって。あんたは信心が足りないから、なんかお役目をいただいた方がいいって。

由香子 すごいね奥さんがつりの人だね。

哲二 俺36で青年代表って、この年でおっさんになってもまだ青年って言わせるか。

由香子 まあ幹部がねーおじいちゃんおばあちゃんだからねえー。

哲二 うわー。俺ショックだわー。ほんつとショック。

由香子 なんて！

哲二 だってユキちゃんのお父さんもお母さんも俺知ってるもん。

由香子 うつそ。

哲二 お父さん結構位(くらい)の高い先生じゃん。お母さんもいつもボランティアしてるでしょ。家庭集会のとさ、いつも俺挨拶してるもん。

由香子 あ、うちの家に來てるの？

哲二 行ってるよお。毎月。

由香子 ええ。

哲二 周りもみんな、柳さんとこは夫婦でしつかり取り組んでてすごいねえって。

由香子 へへえ？

哲二 集会で俺に会った覚えはない？

由香子 いや：(まじまじと顔を見て) けつこういろんな人來るからなあ。実家はほとんど帰ってないし。あ、でも冬の強化修行のときは何度か手伝い行っただけ。

哲二 ああ！

由香子 なに。

哲二 電話の前でほら、パイプ椅子座って、インターホンのなんか係みたいな。

由香子 あ、やったことあるよ。

哲二 ああ俺ら絶対そうだあ。

由香子 ええ？

哲二 しやべったことないけど。会ったことあるわ。

由香子 うわ。

哲二 うわ、ほんとひくわー。あの子か。

由香子 えええ、ちよつとほんとわからない。

哲二 あんな立派なお父さんの娘さん。

由香子 いや、いや、じつは。ははは。

哲二 (頭を抱え) 俺手出せんわあ。

由香子 いや。ちよつと待ってちよつと待って。

哲二 うん？

由香子 まだ。まだだから。私たちがまだ何もしてないから。

哲二 うん。

由香子 ほら、今はおしゃべりしてるだけじゃん。ね。何も起こってないし、今ならまだ引き返せるし。

哲二 うん。

由香子 いやなら、しないし。ね。未遂だから。今は私たちがただの顔見知り。

哲二 そこだわ。

由香子 え？

哲二 そこんなんだよ。

由香子 ？

哲二 俺ねえ、理性と本能がなあ。

由香子 は。

哲二 喧嘩しちゃってるわけですよ、今。

由香子 へへ？

哲二 俺は！ね。

由香子 う、うん。

哲二 もう半年してないの。

由香子 ええ？

哲二 わかる？もう半年。してないの。

由香子 う。うん。

哲二 嫁にね。毎日背中向けられてね。ひとつのベッドで寝てんの。わかる？

由香子 ああうん、つらいね、それ。

哲二 俺がちよつと寄っていったら、ちよつかい出すな、キモイから早く寝ろって。

由香子 うわなにそれきつい嫁だね。

哲二 俺のことなんかバイ菌扱いだからね。臭いだの汚いだ

のジジイだの。もう最近じゃ出会い系と風俗でしか抜いてない。

由香子 じゃあ半年空いてないじゃん。

哲二 違うんだよお！求められてないなあってことだよ。

由香子 う、うん。

哲二 娘も俺のこと避けてるしね。

由香子 うん。

哲二 彼氏んちにいくときだけ車で送って甘えてくるくせに、車の中で話したら「うるさい。パパちよつと静かにして」。どういうこと？

由香子 もう典型的な弱いお父さんだね。

哲二 俺は求められたいのよ。

由香子 でもそれを私に求めちゃっていいのかな。

哲二 いんだよ。少なくとも俺はユキちゃんいい子だと思っ

たよ。メールの感じとか。

由香子 うん。

哲二 さつき待ち合わせでこつち走ってきたとき、俺はうれしかったよ。俺のために走ってくれる子がいるのかって。

由香子 だって遅刻しちやつたもん。それはごめんね。

哲二 俺の嫁だったら絶対走ってこない。なんなら、こんな

に早く来て馬鹿じゃないの？って言うから。

由香子 ひどい嫁だね。

哲二 今日楽しみにしてて。今日はおばさんじゃない、年下

由香子 の女の子だつてうれしくてね。
うんうん。でも私十分おばさんだけだね。一コしか
かわらないしね？

哲二 だから困つてんだよお。楽しみにすぎたわ。今完全
に本能が理性をねじふせかけてる。

由香子 へへ。じゃあもう気にしないでいいじゃん。
でもねええええ。やつぱこれはちよつとなああ。ま

哲二 ずいよなあああ。
やばくないやばくない。だいじよぶ。

由香子 ああまずいなあ、しつかりしろ、俺の理性。
いいじゃんいいじゃん、しつかりしないでいいよ。気

哲二 にしなくていいって。
うう、なんか思いやりのないこと言つてくれるなあ。

由香子 だつてもう今更だし。部屋まできてんのに。
と、ここで哲二の携帯の着信音。

と、ここで哲二の携帯の着信音。

由香子 お？電話だー。

哲二 (出る。由香子に背を向けて) もしもし。はい。なに。
うん。今？今帰り。外。仕事。台車の引き取り。手形。

うん。したよ？渡したよ。なに。ああ。んああ。はい
はい。はい。はい。はい。(切る)

由香子 …：なににないだれ。嫁？
おかあちゃん。

由香子 おかあさんか。いいタイミングだねえ。
いいことないよ。帰りにトイレトパーパー買って来

哲二 いて。笑うでしょ。
ほんと漫画みたいだね。

由香子 俺つてこんなことでしか求められてないんだよお。
だいじようぶだよ。少なくとも、今私に求められてる

哲二 じゃん。
やさしいねえ。泣けるわ。

由香子 いやあ。
会つたばつかりなのに。それはお手当もらうからそう

哲二 いう言葉が出てくるわけ？
ううん、全然そんなじゃないよ。ちよつとなんでそ

由香子 んな意地悪なこというかな。
ごめん。

哲二 由香子 私、嫌だつたら嫌つて言うし。タイプの人じゃなかつ
たら会わないよ。すつぽかして帰つちやうもん。苦手

由香子 な人ならあんた苦手、つていうから安心して。
おお。言つてくれ。

哲二 由香子 かわいそうだねえ。まあ卑屈にもなるよねえ。
うん。

由香子 由香子 …：コーヒー！あつためなおしてあげようか？
いいよ。つめたくて。

哲二 由香子 そーお？
うん。いい。

哲二 由香子 うん。いい。

哲二、コーヒーを飲む。

由香子、哲二の顔をじつと見て、ざっくりと頭をなでる。

由香子 かわいそうですねえ。
いやいや。

哲二 悪いけど、つてつさんの可哀そうな話聞いたら笑つ
ちやうなあ。ちよつと嫁呼んできて。私が説教したげ

由香子 るから。
ははは。こえー。修羅場。

哲二 おうち、大変？
や、仲悪いわけじゃないけど。よくもないな。

由香子 ふうん。かわいそうだねえ。
ん…。

哲二 …：奥さんのなまえなんていうの？
ん？よしこ。

由香子 ふーん。いかにもな名前だね。
なんだよそれ。

哲二 よし、じゃあよしこ呼んできて。いつべん対決しな
きゃ気がすまない。

由香子 おいおい。やめてよ。
よしこ。よしこよしこよしこよしこ。おおたよしこ。

哲二 …：…。
今名前教えなきやよかつたと思わなかつた？

由香子 少し。

由香子 大丈夫。これからいつばいネタにしてあげる。
やつぱ教えなきやよかつた。

哲二 由香子 ふえふえふえ。
哲二、距離をおいて立ち上がる。

哲二、距離をおいて立ち上がる。

哲二 …：めしとか行くの？腹へつてないの。
うん。いいよ。勿体ないでしょ。

由香子 そんな遠慮しないでいいのに。
いいよ。私ここでおしやべりしてる方が楽しいよ。お

哲二 なかすいてないし。せつかくうち来たのに。
またそんなこと言つてえ。

由香子 だつてほんとだもん。もつとつてつさんの話聞きた
いなあ。

哲二 うまいこというなあ。
ほんとだよお。

由香子 …：あ、だめだ。
どうしたの。

哲二 由香子 やつぱ俺、喧嘩が。
喧嘩？

由香子 …：もういつか。
うん。

哲二 由香子 これも何かの縁だし。な。
うん。

由香子 うん。

哲二 なんか意味があつてお導きされたのかもしれないな。
由香子 そうそう。そういうことだよ！

哲二 背徳感。

由香子 ふふふ。それ好きだね。

哲二 だつてなー。

由香子 けつこう奥さんいる人多いんだけどね。お客さん

哲二 ……

由香子 おふとん、いく？

哲二 ああ、でもなあ。

由香子 私はいいかげんな人が好きだよ。

哲二 うん。

由香子 なにそんな悩んでんの。

哲二 ああもう俺何言つても説得力ない。今やらしいこと

ばつかり考えてるもんなあ。

由香子 うん、そうそう。いいねいいね。もつといい加減な人

になつてね。

哲二 うう。説得力のない下半身。

由香子 へへへ。下半身で。いいじゃん、いいじゃん。

哲二 うん。

由香子 (手を引いて) いこ。あ、お布団冷たかつたらごめんね。

哲二 寒いでしょ、このいえ。

由香子 うん。

由香子 大丈夫だね、すぐあつたかくなるよね。

哲二 うん。(立ち止まる)

由香子 ……おいだよ。

哲二 うん。…うん。

由香子 こつちにきてください。

哲二 ……うん。…うん。

暗転。

明転。数日後。由香子が一人である。

ノートパソコンに向かって何やら作業している。
手元にはレポート用紙の束。そこへ携帯に電話。

由香子

はーい。いま？今ちょっと用事してるよ。もう下？うん、カギあけてるから勝手に入つてー。はーい。はーい。はーい。

と、すぐに玄関の扉が開く音。哲二。

哲二 おーす。

由香子 うわつ。はやつ。

哲二 実はそこで電話してた。つてね。

由香子 びつくりしたー。

哲二 どうもあけましておめでとうございます。

由香子 あ、おめでとうございます。どうもどうも。

哲二 またこんなさつむいのに薄着でー。

由香子 いやーこの方がゆつたりできるから。

哲二 風邪引くぞお。

由香子 はあい。

哲二 (手にしていた袋を渡して) はいこれどうぞ。

由香子 んーなんだなんだ。

哲二 みかん。あと適当にいろいろ。

由香子 うわーありがとう！助かるう。

哲二 おかあちゃんの知り合いがたくさんくれるんだよ。

由香子 わーうれしいな。みかんだみかんだ！ビタミンCだ。

哲二 どうぞどうぞ。うちはまだダンボールにまるまるあるから。

由香子 いやーなんか全然お正月が来たつて実感なかったから、やつとこさつて感じだよ。

哲二 みかんで？遅すぎでしょ。実家には帰つたの？

由香子 うん。ちよつとだけ顔出した。

哲二 ゆつくりできた？

由香子 いやもう全然。ちよろつと行つて一緒にお雑煮食べ

そんだけ。

哲二 やつぱり仕事忙しいの？

由香子 そうだねー。みんな休みたがるから、私と、ベテラン

のおばちゃんと、高校生でほとんど配達行つてたよ。

哲二 も、雨も降るしね。大変。

由香子 あそう。頑張つたねえ。

哲二 はい、クイズね。私は何枚年賀状が来たでしょう。

由香子

哲二 えー…六枚。

由香子 おいしい！四枚でした。

哲二 おいおいさみしいなー。

由香子 そのうち二枚は接骨院と美容院。

哲二 ははは。実質二枚だな。

由香子 ねー。友達いねえな、つて感じだよね。もういつそ接骨院と美容院のお友達になるか。

哲二 どんな状態だよそれ。…そう、これも。

由香子 ん？なにになに？

哲二 はい。(と、ポチ袋)

由香子 あ、お年玉だー！

哲二 ま、気持ちだけだけど。

由香子 うそお、やつたあー、ありがとう！見てもいいかな？

哲二 どうぞ。

由香子 まあ、さつきまでチビらに配つとつたから。ついでにな。

由香子 あはは。35でお年玉もらつちやつた。やたー。ありが

がとう、大事に使うから。遊ぶお金にはしないからね。

哲二 いえいえ。どうぞお好きに使つてください。

由香子 (拝む) 悪いねえ。あ、なんか飲む？コーヒーとお茶

とどつちがいい？

哲二 んーじゃあお茶もらおつか。

由香子 はあい。(キッチンへ)

哲二、なんとなくパソコンを見ている。

由香子 (声) てっちゃん今日は？親戚のおうちとあとは？

哲二 へん、あいさつ回り行ったよ。

由香子 えー、お仕事お休みなの？

哲二 うん。よそはもう始まつてるもん。

由香子 せつがちだねえ。

哲二 いやいや、俺の会社がゆつくりなだけだよ。

由香子 そー。

哲二 オヤジがいつ引退するかわかんないからさ。俺がき

ちつとしないとかない。

由香子 ふーん。

哲二 またいろいろお菓子やらなんやらもらったから持って

くるわ。

由香子 えーいいいいいよ。もらってばかりだもん。

哲二 いやいや、俺お菓子とか別にいらさないから。もらって

くれる方が助かるから。

由香子 じゃあ、また持ってきてえ。

哲二 うん。

由香子 (この頃腰かけて) そーそーそー、てっちゃんちよつ

と相談なんだけとお。

哲二 おーなに。

由香子 あんねー、今あ、今度の強化修行のスピーチ書いてる

んだけど。

哲二 おつ、なに。ユキちゃんスピーチやんの？

由香子 うん。なんかやれたがる人がいないから、私は嫌って

言っただけけど。実家帰った時に頼まれちゃって。

哲二 うんうん。

由香子 「もう私もお父さんもお兄ちゃんもやつちやつたんだ

から、あんたも一回ぐらい頼まれてよ」って。

哲二 あらあ。大変だ。家族総出だね。

由香子 そうだよー大変なんだよお。そんなのやったことない

のにいきなり任せられちゃったもんだから、どうしてい

いのかわかんなくて。

哲二 いつやんの？

由香子 えー、二日目に発表なんだけけど。

哲二 じゃあもうすぐじゃん。

由香子 そうなんだよーどうしよう。

哲二 もう他の人に頼めないの？

由香子 うんー。当日の受付と、読経と、ビデオテープの人は

もう決まつてるんだって。だからあとはスピーチだけ。

哲二 ああそう。じゃあ仕方ないか。

由香子 もう、何回も断ってきたから、もう断れないし。

哲二 あらあ。

由香子 っていうか私、今年は参加するつもりもなかったのに。

哲二 俺今度からお父さんにどんな顔して会ったらいいかわ

かんないなあ。

由香子 いやんもう、それは上手に知らない人みたいにしてい

ただかないと。

哲二 いやー俺自信ないわあ。

由香子 そうだ、嫁もくるんじゃないの？よしこ。

哲二 もちろん。

由香子 うわあ、よしこの顔見たいい(地団駄踏む)。

哲二 やめてよそんなたいしたもんじゃやないよ。

由香子 よしこはどんな感じのひと？

哲二 えーとね、韓国人みたい顔してる。

由香子 なにそれそんなんじゃないよ。

哲二 まあスラーつとした感じだよ？キツイ感じの顔で。美

人は美人だけど。

由香子 うわあ見たいいいい(地団駄) こいつが鬼嫁か！って

言つてやりたいいいい！

哲二 やめてよ、波風立てないでよ。俺みんなの前で殴られ

ちゃうよ。

由香子 大丈夫。なんにも言わないけどニヤニヤしてるから。

哲二 てっちゃんと嫁を交互に見て。

由香子 ああそう？じゃあ俺も「おたくの娘さんどすけべです

よねえ」つてお父さんに言うわ。

由香子 うそつけ。そんなの言えないくせに。

哲二 だよなあ。やつば言えないよなあ。

由香子 内緒にしようねえ。私は大丈夫だよ、そういう知らん

ふりするの得意だもん。

哲二 得意って言われてもなあ。

由香子 あそうそうそんでね、今書いてるんだけどね。(PCを

覗きこみ操作して) ちよつと待つてね：こーんな感じ

で。

哲二 はあー。まだ最初とこしか書いてないわけね。

由香子 うん。えー：(読み上げる)「みなさま、御苦労さまで

ございます。本日スピーチをつとめさせていただきます、

青年14部の柳由香子と申します。このたびは：」

哲二 え。

由香子 ん？なに。

哲二 ユキちゃんつて、由香子つて名前なんだ。

由香子 あ。しまった。

哲二 いや、本名ではないだろうなと思つてたけど。

由香子 うん、実はね。はは。自分で言っちゃった。

哲二 そうかあ、由香子ちゃんかあ。

由香子 超今さらだよね。まあそれはいいじゃん。もう隠すこ

ともないでしょ。二人の仲じゃん。

哲二 まあそうなんだけど、

由香子 「仕切り直して) この度は尊いスピーチの機会をいた

だき、誠にありがとうございます。感謝の気持ちで胸

がいつぱいでございます。本日はわたくしがみ教えに

結ばれてから現在に至るまでを、簡単ですが皆様にお

話させていたきたいと思います」

哲二 すごいなーお行儀よく書いてるなー。

由香子 違うの！ここまでは今までスピーチした人のパクリな

んだよ。(レポート紙を見せる) こういうのね。
哲二：これはお母さんのときのやつ？

由香子 そうそう。

哲二 あ、こっちはお父さんの。

由香子 そうそう。もらってきたの。

哲二 ふううん。

由香子 もうここまで書いて、あとは続きをどうしようって感じ
でさあ。

哲二 そりゃー最初は入信したときのことを書くでしょう。
由香子 いやでも私自分で用紙出して明星に結ばれたわけじゃ
ないからね。「ぜんぜん入信するつもりじゃなかったのに、
いつの間にか入ってました」とは言えないじゃん。
哲二 そんなこと言ったら大問題になるわ。
由香子 ね。

哲二 そこは、「生まれた時からご縁があつて教えに結ばれ
ました」とかでいいんじゃないの？
由香子 うーうん。ううううん。

哲二 ー、別にさあ、無理して思つてもないことを書くん
じゃなくて。ウソつく必要はないんだからね。なるべ
く雰囲気の良いことを書いとけばいいんじゃないの？
由香子 ーううん。

哲二 あんまり宛に通えてないのも正直に書いたらいいん
じゃない？それで、これから頑張りますって書いたら
いいかもしれないよ。

由香子 えー：「私大変、ふつつかな未熟者でございまして、
あまり明星にも行けておりません。」

哲二 (笑つて) うんうん。

由香子 「配慮が足りませず、失礼も多々ございましてようが、
おめたい席に免じて、どうかお許しをいただきます
よう、前もつてお詫び申し上げます。」

哲二 結婚式みたいになつちやつてるじゃん。

由香子 「寒き厳しい折ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか」

哲二 いやいやいや。戻っちゃつてるよ最初に。

由香子 えー「特にお話することもございせんが。」

哲二 (笑つて) それは正直すぎ。

由香子 うう。私作文とかほんと無理い。

哲二 これは発表が楽しみだなあ。

由香子 他人事だなあ。

哲二 なんかも今まで感謝するようなエピソードとか、頑張つ
た話とかないの？

由香子 ーそうねえ、昔は真面目に取り組みしてたんだけど。

哲二 じゃあその時のことを中心に書けばいいんだよ。

由香子 ーなんかあつたかなあ。

哲二 みんな小さいことでも発表してるけどなあ。病気が治
りました、とかでもないんだけど、駅前清掃で心が清
くなりました、とか、職場の方とうまく話せるようにな
りました、とか。あるじゃん。
由香子 そんなのさー本人の気の持ちようじゃん。

哲二 それを言つちやつたら元も子もないでしょ。

由香子 ー別に、こういう風に自分が良くなりましたって言
うのはないけどね。なんか、すごい自分が追い詰めら
れた時とか困つた時に、お祈りする対象があるつてい
うのはいいなつて気がするよ。

哲二 あーはいはい。

由香子 たぶんこの「教え」やつてなかつたらさ、困つたとき
に、あー神様仏様！どうしようどうしよ、つてなると思
うんだよね。

哲二 うん。

由香子 でも私たちつてわかりやすいでしょ。

哲二 わかりやすいつてどういうこと？

由香子 (立ち上がり) 明星様！

哲二 おつ。

由香子 明星様！助けて下さい。私困っています。

哲二 ああ：ああ、ああ、ああ。

由香子 お金がないんです。つらいんです。助けて下さい。お
金ください。

哲二 すごいストレートなお願いだね。

由香子 あとそこで猫が死んでます。可愛そうなので成仏させ
てあげてください。

哲二 ああ、ああ。そういうときあるのね。あるのかな？優
しいね。

由香子 あと不倫している哀れな中年男性も助けてあげてくだ

さい。

哲二 ちよつと、俺死んだねこと同レベルなの。

由香子 よしこのDVから彼を助けてあげてください。

哲二 ちよつと俺はいいよ、そんな深刻じゃないよ。大丈夫。

由香子 彼のおこづかいもつと増やしてあげてください、娘の
パンツ洗うのやめさせてあげてください、パチンコで
もつと稼げるようにしてあげてください。フェラーリ
かなんかあげてください。

哲二 いいつて、何その欲まみれなお願ひ。俺情けなくなつ
ちやうよ。

由香子 と、こういう風にはつきりお願いできるでしょ。

哲二 なんかも全然追い詰められてる感じがしないけどね。

由香子 得したことなんてそれぐらいだよ。

哲二 そうなの？

由香子 私ね、この教えに入つてて：もうなんの観念もない頃
からだよ。お寺に行つてて、私は特別な子なんだ、つ
て思うようになったよ。私別に美人でもなんでもない
けど、そのかわり心が優しく、おだやかで、困つた
時は仏様に助けてもらえて。で、お願いも出来て。で
も他の子はいやしくて、あさましくて、悲しい子たち
で：、自分は特別な子だな。そういう風に思つてた
よ。でもそれ間違つてるんじゃないかと思うように
なつてきてさ。大人になつてきて。それで迷つて。
哲二 ああ：なんだかわからなくもないけど。

由香子 なんて、真面目な話をしてしまった。しょーもないね、わたし。

哲二 いやいや、いいいいよ。そういう真面目な話をするんでしょ？

由香子 だいたいさ、明星っておかしいんだよ。不必要にお金がかかりすぎなんだよ。お布施とか言っつていつぱいお金せびるし。ちよつと悩み相談したら相談料とかとられるでしょ。こんなのマルチじゃん。カルトじゃん。悪徳じゃん。

哲二 こらこら、そういうのは思っつても言わないの。

由香子 知っつてる？明星つて、ネットで超叩かれてるんだよ。なんとか本部のなんとかとなんとか代表は不倫してますとか。奥さんと別れてすぐ後妻をもらいましたとか。金稼ぎ宗教とか。暴力集団とか。仏像ばつか買うな、早くやめちまえとか。

哲二 知らない知らない。そんなこと言っつちゃだめ。

由香子 てつちゃん、いいこぶつて。

哲二 ま、俺は思っつてもそんなこと言っつちやいけない立場だから。

由香子 だいたいてつちゃんだつてこんなことしてるもんね。奥さんほつぽつて私としつぽりだもんねえ。

哲二 別にほつぽつてはないよ、ちゃんと家のことはしてるよ俺。

由香子 じゃあ今日はなんて言っつて家出てきたの？

哲二 あいさつ回りおわつたら社員のコと打ちつぱなし行つてくる。

由香子 うわあ、嘘ついたあ。ちゃんと車の後ろにクラブ積んであるからね。

哲二 外出するのも一苦勞だね。

由香子 まあだいたい外回りつてことにするね。

哲二 よしこに根掘り葉掘り聞かれるでしょ。ああもうすごいよ。何時に行つて何時に帰るの、どこに打ちつぱなしなの、誰と行くの、何人で行くの、なに食べて帰つてくるの、寄り道はしないで帰つてくるのつて。もうほんとど尋問。

由香子 途中でカツ丼かなんか出てきそうだね。

哲二 カツ丼が出りやあいけど、だいたいメシ炊くのは俺なんだから。

由香子 うつそ。てつちゃん家でごはんも準備するの？

哲二 そうだよ？だから朝は自分でパン焼いて、娘の弁当の準備して、夜のお米のセットしてから仕事に行くんだよ俺は。

由香子 すごいねそれ。よしこはその間なにしてるの。

哲二 ぐうぐう寝てるよ。

由香子 ぎよえー。

哲二 嫁はたまあに機嫌がいいときにお茶いれたりしてくるだけ。

由香子 うそー。すごいね。

哲二 なんか用事してくれたら逆に怖いもんな。これからなにか起こるんじゃないかと思っつて。

由香子 天変地異の前触れ。

哲二 まあ生活の8割ぐらいは機嫌悪くしてるから。

由香子 こわああああ。ううわ、こわああああ。

哲二 かわいそうな俺。ああかわいそう俺。(甘える)

由香子 だからといつてさあ…。あ、やめとこ。

哲二 なに。

由香子 なんでもない。

哲二 なになに言っつてくれないと気になるよ。

由香子 いやいや。ちよつとさあ、てつちゃんうちに来すぎなんじゃないの？お正月ぐらいうちにいた方がいいんじゃないのー？

哲二 なんてそんな悲しいこと言っつてくれるかな。俺の唯一の安らぎの場所なのに。

由香子 だつて最近しよつちゅう私に会いに来るじゃん。

哲二 そーお？

由香子 そうだよお。たまには奥さん孝行してあげなきゃダメだよお。

哲二 奥さん孝行なら毎日してますよ。

由香子 そういうことじゃなくてさ。あんまりうちにきても疑われちゃうでしょ。

哲二 いいのいいの。そんなことより、明日はひま？なんか買いいものでも行こうよ。それでそのあとゆつくり一

緒にスピーチ考えようよ。

由香子 ちよつと話聞いてなーい。

哲二 はいはい聞いてませんよ。

由香子 バレても知らんよ。刺されても私のせいじゃないからね。

哲二 うんいいのいいの。俺の自己責任だから。別に証拠も何も無いからバレるわけないし。

由香子 いやいや、奥さんだつてバカじゃないつて。

哲二 なんか欲しいものある？服とかいらなの？福袋まだあるんじゃないかい？

由香子 いらな。服ぐらい自分で買うもん。

哲二 遠慮しなくていいのに。

由香子 いいよ遠慮とかじゃないもん。

哲二 俺ユキちゃんをどうにかしたいとかじゃなくてさ。ちよつとでも毎日を楽しく生きてほしいなつて思っつてるわけさ。

由香子 大丈夫ですう。それなりに楽しくやつてるもん。

哲二 またまた。一人の時間は寂しいでしょ？

由香子 大丈夫、ほかにもいろんなお客さんに会っつてるもん。(むつとする)

哲二 こないだ大變だつたんだよー。お布団のところనికి、てつちゃんがくれたでつかいゴムの箱あるじゃん。あれ見たお客さんが、どこのどいつが持つてきたんだ、つていきなり怒りだしちゃつて。私いつつもある

由香子、中から財布を取り出して、カバンを哲二に押し付け離れた場所で見える。哲二、半ば諦めながら電話を続ける。

哲二 ああ。ああ。もういいですか。みんな待つてるんですけど。うんうん。ん、ごめん。ああ。ああ。はい。はい。はい。はい。

哲二、電話を切る。

哲二 ちょっと。何遊んでんの。

由香子 (財布を探りながら) だつてつちゃん電話ばかり。

哲二 ほんとなんでこう間が悪いかなあー。

由香子 奥さんでしょ。怒つてた？

哲二 お前は早く家に帰つて私の愚痴を聞く義務があるつて。

由香子 うわーお。意味わからん。

哲二 遅く帰るつてもう言つてるから、別に帰らないけど・

由香子 それにしてもつちゃんはポイントカード集め過ぎだな。

哲二 まあ別に見てもいいんだけどさ。見られて困るやつもないし。

由香子 これはゴルフのお店？あ、駅前のか。エッチなお店のやつないの？ないのか。

哲二 そんなの入つてたら嫁に殺されるし。

由香子 あ、この本屋私も行くところ。お、名刺発見。おお。専

務。専務取締役。すごい。すごいかっこいい肩書き。太田哲二。

哲二 うん。

由香子 自動車運送取締事業・太田運送。

哲二 うん。今度エッチの途中で専務うつて呼んでもいいかな。

哲二 なに言つてんの。

由香子 いやあ、美しい秘書との燃え上がる恋、みたいな。

哲二 意味わからん。

由香子 これ、会社もこのへん？

哲二 うん。事務所兼自宅だもん。

由香子 ふうん。

哲二 やろうか？その名刺。

由香子 え、いいよ。なんで？

哲二 いや、なんか困つた時に俺の名前出してくれたら。

由香子 ええ。それ逆じゃないの。俺の名前出すと困つたことになるんじゃないの。

哲二 まあ、それもあつていいけどな。

由香子 てつちゃん不用心だよ。知らないよ？いきなり私から電話かかつてきて、「おたくの旦那浮気してますよん」つて言われたら。一発でアウトだよ。私なにやるかわからないじゃん。

哲二 いやいや、そんなことはしないでしょ。なに「してま

すよん」つて。

由香子 いや、わかんないよお。女はなにしてくるかかわかんないし。脅迫するかもしないよ。

哲二 大丈夫。ま、なんか困つたことあつたら俺の名前使つてよ。

由香子 そつか。じゃあもうらう。てつちゃん顔が広いわけね。

哲二 うん。

由香子 お札あんまり入つてないじゃん。ひよつとして金欠？

哲二 いやいや、ちようどお年玉あげてきたところだから。今さつき言つたじゃん。

由香子 ふうん。

哲二 俺さ。

由香子 うん。

哲二 もつともつと金持ちになりたいよ。

由香子 うん、いいねー。私もなりたい。

哲二 もつともつともつと金持ちになつてさ、ユキちゃんを

困つてしまいたい。

由香子 えええ。すごいこと言うね。

哲二 俺、ユキちゃんに何もしてあげてないもん。

由香子 そんなことないよ。いつつ車もせてくれるし、差し

入れもいっぱいくれるじゃん。超ミツグくんじゃん。

哲二 そういうことじゃなくてさ。

由香子 うんうん。

哲二 こんな狭いアパートに住むんじゃなくてさ。もつとい

いとこ住ませてやつてさ。家賃ぐらいいは出してやつてさ。

由香子 うふふー。うん。

哲二 で、半同棲みたいに俺と暮らすの。犬なんか買つて。可愛い名前とかつけて。俺の仕事はここでも出来るようにして。で、夜になつたらほんとの家に帰つて。

由香子 うん。

哲二 あ、それじゃあ今とそんなに変わらないのか。結局、嫁がいる限りはユキちゃんとは暮らせないもんね。

由香子 んーうん。

哲二 いつそユキちゃんと結婚できたらな。

由香子 たはは。もーてつちゃんダメだつて。そんなこと言つたら奥さんに怒られるつて。

哲二 いいよ。どうせここにはいないんだから。

由香子 ダメだよ、大事にしてあげてよ。

哲二 そんな本気にとんないでよ。例えばの話なんだから。

由香子 突き放すようなこと言うなよ。

由香子 うんそうだね。ごめんね。

哲二 ユキちゃん俺が結婚してるから怒つてる？

由香子 なにそれー。怒つてなんかないよ。

哲二 あてつけに男作つたりしてないの？実はしよつちゆう

由香子 彼氏が遊びに来たりしてないの。

由香子 いやいやいやいや。

です。だから、私はしばらくは、その甘えるまでの自分を眺めています。泣いてどうぞこの自分を見ています。あああんな泣いちゃって。なんかのヒロインみたいだね。大丈夫、もうすぐに幸せになれるからね。大丈夫、もうすぐ助けてもらえるからね。もうすぐだよ。もうすぐだよ。

由香子、椅子の上に立ち上がる。

由香子
そして私は不幸な自分に飽きたころ、そつと神様のくるぶしにキスをするのです。

由香子は空を見上げて爪先立つ。手を伸ばして。

暗転。

明転。

ぼうつとパソコンに向かっていている由香子。

インターホンが鳴る。

由香子
はい。

のそのそと玄関に向かう。

由香子
(声だけ) おお? ・てっちゃん? どうぞどうぞ。

哲二を連れて居間に入ってくる。

由香子
どしたの? 下に着いたら連絡ちょうだいよ。誰かと思っちゃった。

哲二
来る時は連絡ちょうだいって言ったでしょ。超ちらかつてるんですけどお。

哲二
……

由香子
(パソコンを閉じて) お茶? コーヒー? どっち?

哲二
俺がいきなり来たら困るの。

由香子
んー? 別に困ることないけど。

哲二
ユキちゃん。

由香子
なに?

哲二
なんか俺に謝ることないの。

由香子
ん? なになに? なんかもっちゃった? 私。

哲二、カバンから茶封筒を出してテーブルに置く。

哲二
謝ることないの。

由香子
なにこれ。

哲二
……

由香子
なにこれ。なんなの、なんなの。

哲二
謝れよ。

由香子
だからなにこれ、

哲二
謝れよ!

驚き、跳ね上がる由香子。

由香子
ちよつと。なにー。びつくりするじゃん。

哲二
……

由香子
これなんなの?

哲二
連絡出来るわけないだろ。

由香子
どしたの?

哲二
連絡出来るわけないだろ。携帯ないんだから。

由香子
え。え? なんて?

哲二
そんなに俺の家庭を壊したいか?

由香子
(嗚然)

哲二
:俺の嫁はね。

由香子
う、うん。

哲二
殴るときね、グーで殴るんだよ。パーじゃなくて。ゲ

ンコツ。グーだよ。手加減なんてしないんだよ。

由香子
うん。

哲二
何度も何度も殴るんだよ。大きい声で泣きながら。俺が逃げ回っても。子供の前で。娘の前で。思いつきり振り下ろすんだよ。腕を。それで子供はただ横目に見てるだけなんだよ。

由香子
:ちよつとてっちゃんどうしたの? とりあえず座つ、

哲二
あいつはなんべんでも殴るから、俺アザだらけになる

れでいいのかって。許してくださいって。

由香子

……

哲二 あいつ折ってもまだ許してくれないんだよ。踏みつけるんだよ。何度も。携帯を。何度も何度もこうやって。こうやって！（床を何度も踏みつける）

由香子

……

哲二

ユキちゃん。

由香子

……ん？

哲二

俺に謝ることないの？

由香子

ん。

哲二

ないの？

沈黙。

由香子

いや。いやいやいや。

哲二

……

由香子

（封筒を手に取り）ちよ。だつて。え、と。ごめんね、ちよっとこれ見させてね。

哲二

（黙って座る）

由香子、封筒に入っている便箋を手に取り、読む。

しばらく読んでいる。それを見ている哲二。

由香子

……ああああ。

哲二 ……

由香子

これは。これはまずいね。

哲二

……

由香子

そりゃ奥さん怒るね。

哲二

……

由香子

え、てっちゃん、私のせいだと思ってる？

哲二

……

由香子

私を書いたと思ってる？

哲二

他に誰が書くんだよ！

由香子

（萎縮して）いやいやいや。ちよっとそんな。落ち着いてよ。

哲二

はあ？

由香子

話しにならないでしょ。今日話しにきてくれたんでしょ。私にも話させて。ね？

哲二

……

由香子

え、と。

沈黙。

由香子

あのね。信じてほしいんだけど。これ、私じゃないから。そのつもりで聞いてね。

哲二

でもそ、

由香子

（遮って）ごめんちよっと聞いててね。てっちゃん、この手紙読んで、なんで私がこんなことするんだろ

う、つて思ってたでしょ。

哲二

（黙ってうなづく）

由香子

そりゃそうでしょ。だつて、私がこんなことしたつてなんの得にもならないもん。てっちゃんのお家に迷惑

かけたところで、なんにもならないもん。

哲二

……

由香子

てっちゃん、私の事悪い人にしたいの？

哲二

……そんなことはないけど……

由香子

私の事信用してないの？私はずっちゃんのこと信用してるんだけど。

哲二

……

由香子

ごめんね、怒らないで聞いてね。てっちゃん今は私以外の女の子と会ったりしてないの？

哲二

ユキちゃんと会ってからは誰とも会ってない。

由香子

昔の女の子で引きずってる人とかいない？

哲二

……

由香子

まだ言い寄って来る人とか。

哲二

なんだよ俺のせいってこと？

由香子

そうじゃなくて。てっちゃんが好きじゃなくても、てっちゃんのことを好きって言ってる人はいないの？

哲二

いないこともないけど……でも昔の女の子はもう全然連絡取ってないよ。

由香子

うん。そっか。

哲二

……

由香子

…。

哲二 そんな客に会うなよ。俺に迷惑かけんなよ。俺のこと
思ってくれるんだつたら、そういう奴ら全部切つてく
れよ。

由香子

…てっちゃん。

哲二

うん。

言つたでしょ、前に。私は、ふまじめ。ずぼら。どう
しようもない、いいかげんな人。あぼずれの人。

哲二

そんなの理由になるわけないだろ。

由香子

仕事ね、もつと増やそうと思えば増やせるんだけどね。
郵便局だけじゃなくて。こんなことやめた方がいいこ
とはわかってるんだけどね。私、働きたくないの。誰
とも仲良くなれない職場で、うじうじ働きたくないの。
もう、生活のことばかり考えて、毎日人に使われる
のが嫌なの。でも、やつぱり生きていかなくちやいけ
ないでしょ。お金は必要でしょ。

哲二

…。

由香子

あ、別にね。私、お金持ちになりたいわけじゃないん
だけどね。普通に生活できたらよくて。お金のこと考
えなくて済むように、ある程度のお金が欲しいだけ。
ガスとか、水道とか、電気とか、そんなこと考えなく
て済むように。毎日カレンダーとにらめっこしなくて
すむようにね。

哲二

…。

由香子

ね、びつくりするぐらいふまじめでしょ。馬鹿でしょ。

哲二

…。

由香子

ここでやってることはね、こんな馬鹿な私でもできる
からね。私の事、見てもらえるからね。仕事しなくて
よくて、しかも気持ち良くて、チャホヤされて、お
金ももらえてサイコーじゃん。て、私あんまり深く考
えてないの。馬鹿だから。ラッキーらくちん、つて
感じなの。

哲二

…ほんとう馬鹿だね。

由香子

うん、そうなの。馬鹿なの。

哲二

うん。

由香子

ごめんね、てっちゃんは毎日一生懸命働いてるのに
ね。気分悪いかなあ。

哲二

…。

由香子

バイトの面接、行く時もあるんだけどね。せいぜい工
場バイトぐらいしか自分のことは取つてくれないから
ね。いくらでも若い人なんているじゃん。私なんかい
らないじゃん。

哲二

…。

由香子

…ごめんね、私のことは聞いてないね。

哲二

…。

由香子

仕事なんか選んでないで、なんでもやれよ、つて感じ
だよ。愚痴んなよ、つて感じだよ。

とそこへ、携帯の着信音。由香子の携帯。
出ない由香子。じっとしている二人。

哲二

出れば。

由香子

いいの。

哲二

出なよ。

由香子

いいの。

しばらくして、電話が切れる。

由香子

ごめんなさい。

哲二

…。

由香子

ほんつとにこんなので、ごめんなさい。迷惑かけて。

哲二

…。

由香子

やつぱ、嫌いになつちやうよね？

哲二

…。

由香子

(うつむく)ごめんなさい。

哲二

…。

哲二、由香子の背に手をやろうとする。

が、躊躇して手のひらをぐっと握る。

二人黙っていると、突然玄関の扉が激しくノックされる音

(金属製の扉)。

大きな音。二人、驚き、思わずそちらに目をやる。

続いて、何度かインターホンが鳴る。

哲二

だれ。

由香子

わかんない。

哲二

わからんことないでしょ。

由香子

だつて知らないんだもん。

次第にノックは激しさを増す。

二人、身を屈める。

哲二

出なくていいからな。

由香子

なに？

哲二

こういうのは、無視だから。

由香子

…うん。

ノックの音が止む。静寂。ノックの主が帰る。

哲二、様子を伺いに玄関へ。

由香子

(哲二の方を見ている) …。

哲二戻ってくる。

哲二

大丈夫。いない。

由香子

うっ(ぎゅつと目をつむり口を手で覆う)。

哲二 大丈夫？

由香子 ごめんなさい。

哲二 もういいよ。

由香子 ごめんなさいごめんなさいごめんなさい。

哲二 もういいって。

由香子 もう絶対私のせいだ。絶対そうだ。

哲二 いいよ。誰のせいでもないよ。

由香子 こわいー。絶対誰かが…。

哲二 ……。

沈黙。

由香子 : 帰ってくださいあい。

哲二 なに。

由香子 もう今日は帰ってえ…。

哲二 なんでよ。またへんなの来るかもしんじゃないじゃん。

由香子 お願いですから帰ってくださいいい…。

哲二 いいよ。今日はいるよ。

由香子 お願い。

哲二 いいよ、俺もうちに戻りづらいし。泊まってくよ。

由香子 いい。

哲二 いいよ。

由香子 帰ってくださいいい。お願い。

哲二 ……。

沈黙。

哲二 ほんとに戻っていいの、俺。

由香子 (黙って頷く)

哲二 帰ってほしいの。

由香子 (頷く)

哲二 なんでよ。なんでだよ。大丈夫なの。

由香子 (頷く)

哲二 うーん。困った。な。

哲二、由香子の背中をさする。

哲二 : じゃあさ。

由香子 (頷く)

哲二 なんかあったら、すぐパソコンの方にメールして。ほ

ら、いちばん最初に連絡してたアドレス。俺、今日

ずっと見てるから。一晚中見てるから。

由香子 うん。

哲二 ほんと、なんかあったら警察連絡しなよ。あんなの、

ずっと取り調べされるわけじゃないから。ちよろつと

質問されて、それからは連絡こないし、この家にも来

ないから。な。とりあえず、ドア開けたらだめだから

ね。

由香子 うん。

哲二 あのさ、泣きたいのはユキちゃんだけじゃないから

ね。俺も辛いからね。そこんとこわかってね。

由香子 ごめんなさい。

哲二 ま、今日は帰るわ。俺も、嫁が待つてるし。これ以上

怒らせたらやばいから。

由香子 ……。

哲二 : すぐ、新しい携帯買うから。また連絡する。

由香子 うん。

哲二 ぜつたい扉あけんなよ。

由香子 うん、ごめんね。ありがとう。

哲二 うん。また話そう。ゆつくり。

由香子 うん。

哲二、玄関へ。由香子、後を追いかける。

由香子 (声だけ) 今日のごめんなさい。

哲二 いいよ。じゃね。ほんとなんかあったらパソコンな。

由香子 うん、ありがとう。なんかなくても連絡する。

哲二 うん。いーよ。

由香子 ありがとう。

しばしの静寂。その後、扉が閉まる音。

由香子戻ってくる。一度キッチンの方へ。

そして再び居間。

ペットボトルのジュースと、ウィッグを持っている。
がぼがぼとジュースを飲む。うがいもして、飲む。
携帯で電話をかける。

由香子 ごめん。寝てた。あはは。…なんかうとうとしてた。
何？うそ。きたの？全然気がつかなかった。ほんと
だって。あそつか。そうだよ。ごめん、あはは。そっ
かもう金曜日か。ごめんごめん。じゃあがつり寝て
ました。いやいや。ないない。…まだこのへん？うん、
大丈夫。散らかってるけど。あははは。いやいやいや。
あれでもきれいな方なんですけど。あ、うん。あい。
あい。はーい。お待ちしております。あ、ほしい。持っ
てきてえ。やた。うん。…ふふ。え？なに？そう？
いつもどおりでございますが。…ふふ。うるせ。い
いって。あとで話すから。はい。はい。はい。

電話を切る。

由香子、ウィッグをかぶる。かなり印象の変わるもの。

どこかの鏡で髪を整える仕草。

由香子 : あはは、だって。…寝てた、だって。うーけーるー。

由香子、椅子の上に立つ。手を伸ばして。つま先立って。

由香子 か・み・さ・ま……。

手を組み、祈りを捧げる。

由香子

今日も、ありがとう。面白いです。私。：：もうてっちゃんかぎませんように。お願いね。あいつ馬鹿だから。

暗転。

暗闇。いつの間にか、ぼつんぼつんと、小さな灯がいくつか見える。

二人、椅子に腰かけている。

哲二は正面、由香子は客席に背を向けて。(由香子は、由香子自身でない)

由香子はパソコンに触れているように、前屈み。

哲二は実際にパソコンを開く。

哲二

(平坦に) 活動、報告。

由香子

(身を乗り出す)

哲二

今日も、悪徳宗教の、実態を。いきます。

由香子

(さらに身を乗り出す)

哲二

今日は、カウンセリングへ。

由香子

(キーボードを、カタカタやる仕事)

哲二

本日、144回目。

由香子

(カタカタ)

哲二

先生いわく、俺の先祖は、村八分にあい、悲しく、一人、さみしく死んだ、とのこと。

由香子

(カタカタ)

哲二

まるで、どこかで、見てきたような、ことを言う。

由香子

(カタカタ)

哲二

俺が、祈り、運ばせていただくことで、その男が救われ、そして、俺自身も、救われる、とのこと。

由香子

(カタカタ)

哲二

貴方は、可哀そうな人、優しい人、と言われる。

由香子

(カタカタ)

哲二

そして、フェスティバルや、セミナーの、参加を、催促される。

由香子

(カタカタ)

哲二

本日の、相談料、5千円。時間、5分。

由香子

(カタカタカタカタ)

哲二

帰りには、お布施。1万円。嫁も、1万円。しめて、2万5千円。

由香子

(カタカタカタカタ)

哲二

嫁は、今日も、泣いていた。

由香子

(カタカタカタ)

哲二

ありがとうございます、と、何度も、お礼を、言っていた。

由香子

(カタカタカタ)

哲二

俺は、それを、見ていた。

由香子

(カタカタカタ)

哲二

嫁は、ひざが濡れるぐらい、泣いていた。

由香子

(カタカタカタカタ)

哲二

お前、どんだけ、マジのやつだよ、と思い、笑いを、こらえた。

由香子

(カタカタカタカタ)

哲二

それでも、帰ったら、いつものように、俺を殴るんだ、どうせ、と思い、確かに、俺は、可哀そうな男だ、と

考えた。

由香子

(カタカタカタカタ)

哲二

明日は、フェスティバル本番。みなさん、もう、貯金の、引き落としの、準備は、よろしいですか。かつこ、わらい。

由香子

(カタカタカタカタ)

哲二

かしこい、大人は、明日は、おうちで、おとなしく、していきましょう。むぎむぎ、奴らに、こづかいを、あ

たえないように。僕の、ように。

由香子

(カタカタ)

哲二

それでは。またきます。さようなら。

由香子

(カタカタカタ)

哲二

ひきつづき、ご意見、おまち、しています。

哲二、パソコンを閉じる。心なしか微笑んでいるような。

哲二 いいならいいじゃん。
由香子 まあいいんだけど。

沈黙。

由香子 見たよ：よしこ。

哲二 :ああ。

由香子 美人じゃん。

哲二 まあね。

由香子 すぐわかったよ。ほんと、韓国人っぽかったね。

哲二 だろ。

由香子 美人だね。

哲二 まあ、まあ。

由香子 やきもちやいやうよ。あんな目の前で仲良く座っちゃって。

哲二 しょうがないでしょ早く着いちゃったんだから。別に

仲良く座ってねえし。

由香子 まあね。

由香子、コーヒーを飲む。

由香子 奥さん、にこにこしてたね。

哲二 うん。

由香子 ぜんぜん恐そうじゃないじゃん。

哲二 そりゃ、外面はいいもん。

由香子 あれが恐怖の鬼嫁だとは。

哲二 な。信じられないだろ。でも、そうなんだよ。
由香子 うん。人は見かけによらないねえ。

ゆったりした沈黙。

由香子 よかった？

哲二 ん？

由香子 よかった？私のスピーチ。

哲二 ああ。(笑う)

由香子 ちよつと。なぜ笑う。

哲二 いやいや、あまりにお行儀が良すぎて。

由香子 でしょ。

哲二 最高に品が良かったよ。

由香子 でしょでしょ。もう、あらゆる丁寧な言葉を詰め込ん

で書いたからね。

哲二 こいつく、と思いがら見てたよ。

由香子 へっへっへ。ウソ八百。

哲二 ほんと途中で吹きそうになったわ、俺。でも、あんな

シーンとなつてるときに笑っちゃったら、なんだこいつ

つって思われちゃうでしょ。

由香子 ほんとだ。よくこらえたね。

哲二 ほんとヤバかった。

由香子 よしこ、私のことなんか言ってた？

哲二 んー？別になにも。

由香子 なにそれ。なんにも？

哲二 うん。だまつてじーっと見てた。

由香子 ああ、感動で言葉を失ってしまったか。

哲二 いやいや。誰があんな内容の薄いスピーチで。

由香子 ええ。ひどー。

哲二 まあまあまあ、慌てて書いたわりにはよく出来てたん

じゃないの？

由香子 そう？やっぱり？

哲二 うん。

由香子 んふ。

二人、コーヒーを飲む。

由香子 てっちゃんはさ。

哲二 うん。

由香子 てっちゃん、結局奥さんのこと好きなんだね。

哲二 ぜんぜん。

由香子 おおつと？

哲二 まつたく。

由香子 ええええ。推すねえ。

哲二 うん、だつてそうだから。

由香子 うん。

哲二 嫌いだから。
由香子 うん。んふふ。

哲二、コーヒーを飲む。

由香子 :あれえ？

哲二 うん？

由香子 今日は、そういう話じゃないの？

哲二 奥さんと喧嘩したから、もうここに来れませんよ、つ

て話じゃないの？

哲二 んー。

由香子 結局俺は嫁がいちばんだぜ、お前は遊びだぜ、と言

にきたんじゃないの。

哲二 んー。いやいや：つていうかね。

由香子 うん。

哲二 :俺、もうだめなの。

由香子 うん。

哲二 あいつのこと、わかつてやれるのは俺だけだから。仕

方がなしなの。

由香子 うん。

哲二 喧嘩、したじゃん。な、俺。

由香子 うん。

哲二 あいつ、泣くんだよ。いつつも。

由香子 うん。みたいだね。
哲二 で、絶対別れない、っていうんだよ。どんなに文句言っても。

由香子 うーん。

哲二 さんざん殴つといてな。ポロクソ言つてもな。絶対別れないって。何でだと思っ？

由香子 そりゃ・だから結局はてっちゃんのこと好きなんですよ。

哲二 ううん。違うんだよなあ、それが。

由香子 なに？

哲二 俺が嫁と別れるでしょ。そしたら俺、たぶん急にのびのびするでしょ。

由香子 ああ、まあ、するだろうねえ。

哲二 たぶん新しい女とか作るだろ。な。パチンコも行くし、ゴルフだって風俗だつて行くだろ。な。好きなもん食べるだろうし。

由香子 うん。

哲二 それが許せないんだつて。俺にニコニコして欲しくないつて。幸せになつて欲しくないって。

由香子 ええ。ええええええ。すごい理由。

哲二 もう、別れた後に俺が笑つてると思うだけでイライラするんだつて。な。すごいよね、もうそこまで行くと逆に笑えるだろ。

由香子 いやいやいや。ぜんぜん笑えないよ。引いちやうよ。

哲二 一生別れさせんつて。で、しがみついでくんの。

由香子 ……ふうん。

哲二 で、俺考えたんだ。こいつがこうなつちやつたのつて、俺のせいでもあるのかなあつて…。

由香子 うん。

哲二 ま、もともとできちやつた婚だし。結婚したくてしたわけじゃないからね。あいつも、好きな男の一人や二人いたのかもしれないし。

由香子 うーん。

哲二 だから、責任つていうんかね。うん。

由香子 ……真面目だね、てっちゃんは。

哲二 そうか？

由香子 そんなヒステリー女につきあつて。

哲二 やつぱりそう思う？

由香子 うん。歪んだ愛だなあ。

哲二 愛じゃねえよ。

由香子 ふうん。

沈黙。

由香子 ……てっちゃん。

哲二 なに。

由香子 冥土の土産に、いいこと教えてあげようか。

哲二 なんだよそれ。俺別に死なねえよ。

由香子 いや、あんまいいことじゃないかな？

哲二 きた。なんだよ。

由香子 今日ね、私、デートなの。

哲二 なんつつじやそりゃ。知らんよ。

由香子 かわいい年下の子とね、デートなの。

哲二 あそ。

由香子 お手紙もらつちやつたの。

哲二 しらねえつて。

由香子 うれしくてね。今日はおめかししちやうぞ、つて感じなの。

哲二 あーあーあー、そうですか。もう全然、まったく聞き

たくない。

由香子 すつごい緊張してるの。どうしよう。

哲二 どうしようもこうしようもないでしょ。会うだけじゃん。

由香子、別室から封筒を持ってくる。

由香子 見てこれ。この可愛い封筒。

哲二 ああ。可愛いね。まあ、可愛いのはいいんだけど、

由香子 こころちゃんつていうの。女の子。ほら。

哲二 うん？…男からじゃないの？

由香子 こころ、つていうぐらいだもん、性格もいいよねきつと。

哲二 ……ええ？

由香子 ……びつくりした？

哲二 うん。かなり。

由香子 でしょ。

由香子、便せんを取り出す。

由香子 ずるいよなあ。

哲二 なに。

由香子 困ったときだけ、連絡よこすんだもん。

哲二 え、それは、

由香子 ほんとめんどくさいよなあ。

哲二 え。

由香子 めんどくせえ、めんどくせえ。

哲二 ユキちゃん？

由香子 めんどくせえ。

哲二 ……

由香子 真面目な話くらい、真面目な封筒で送れつての。

哲二、手紙を手にとって読む。

由香子 こころちゃんはゾツコンみたいなんだけどね。

哲二 ……

由香子 優一がね。その気がないみたいだね。

哲二 ゆういち。

由香子 うん。やさしいちばん、優一君。

哲二 (読む) 大事なお話をさせてください

由香子 ふふ。

哲二 「連絡がおそくなり申し訳ありません」

由香子 ふふ。

哲二 ……今日会うんだ。

由香子 うん。

哲二 大丈夫なの。

由香子 なにが？

哲二 いや、だって、いろいろ。

由香子 うん。

哲二 ちよつと、俺、いろいろ経緯がわかんないから、なん

とも言えないけど。

由香子 優一君はね。

哲二 うん。

由香子 ぜんぜん優しくないの。

哲二 ……？

由香子 優しくないの、一番の子なの。

哲二 ……なにそれ。

由香子 どうせ、ベタな相談されるんだろうなあ。

哲二 うん？

由香子 子供ができましたとか、結婚したいですとかだろう

哲二 ……

由香子 そうなのかな。

由香子 それとも借金かなかなかなあ。

哲二 二人はどこかに住んでるの？

由香子 知らない。

哲二 ずっと連絡取ってなかったの？

由香子 ……

哲二 え、なんなの？ どういうことなの？

由香子 ……知ってる？ 結婚って、一億かかるんだつて。

哲二 ……なに？

由香子 毎月30万円の、30年ローンぐらいのお金がかかる

んだつて。

哲二 そんなにかかるかあ？ あ、でもそれぐらいはするの

なあ。

由香子 子供一人産んだら、四千万かかるんだつて。

哲二 ……まあ、お金はかかるよね。

由香子 めんどくせー。

哲二 うん。

由香子 どうしよつかなあ。

哲二 ……

由香子 優しいちばんのゆういちくんは、今や立派なスケコ

マシ。

哲二 ……

由香子 親によく似てしまいましたねこれ。

哲二 ……なんで今まで俺に隠してたの？

由香子 えー？ いや、わざわざ言うことでもないかなあつて。

哲二 そんなことないでしょ。…え、旦那は？

由香子 まあ、それはいいじゃん。

哲二 ええ。教えろよそれは。

由香子 いーよ。そこまで教える義理はないよ。

哲二 いやいや、じゃあこころちゃんのこと話さなくてい

いでしょ。

由香子 いーの。

哲二 なんだよそれ。

由香子 もう、あなたと私は関係ない人になるんだからね。

ちよつと話してもいいなあ、思っただけ。

哲二 いや、俺、別に嫁と仲直りしたわけじゃないんだけど。

連絡ぐらいは取り合おうよ、お互い。なんでそんなこ

と云うの。

由香子 うるせ。

哲二 ちよつと、なに、怒つてんの？

由香子 怒つてないよ。

哲二 ……

沈黙。
哲二、何か話そうとするが言葉にならない。

哲二 あ、あのさ。

由香子 灯籠。

哲二 え？

由香子 灯籠、きれいだったね。ビデオのやつ。

哲二 ……ああ。フェスティバルのやつか？ なに突然。

由香子 うん。素敵だったね。すごい数だよ。見てる人もた

くさんいたね。

哲二 うん。

由香子 和太鼓もかつこよかったね。いちばん最初の。

哲二 ああ、うん、そうだな。

由香子 あの舟どこにいくんだろうね。あれ、誰かが拾つてく

れるのかな。

哲二 それは、ちゃんとネットとかが下流にしかけてあつて、

由香子 拾ってもらえるといいねえ。

哲二 ……。

（由香子、立ち上がる。）

由香子 ま、またお寺で会うでしょ。そんなとき、声かけてもいいよ。

哲二 あ、うん。

由香子 あ、でもよしがいないとこでね。ヤキモチ妬かれたらたまらんから。ややこしいから。

哲二 うん。

由香子 さ、じゅんびじゅんび。るんるん、と。

哲二 え、もう出るの？

由香子、寢室の方にはける。

由香子 てっちゃん帰るでしょ。

哲二 え。

由香子 帰るんでしょ。ばいばーい。さいならー。ばばーい。

哲二 なんだよそれ。つめたいな。

由香子 そりゃそうでしょ。もう関係ないもん。

哲二 いいじゃん。一緒に出ようよ。

由香子 やだよ。

哲二 俺送つてくよ。どこまで？

由香子 いいよ。歩いていけるもん。そんなのいいから小遣いよこせ。

哲二 じゃあ小遣いやるよ。

由香子 うそだよ。いらないよ。帰りなよ。

哲二 いいからさ。最後ぐらいいいじゃん。

由香子 最後だからやーなーのー。

哲二 いきなり生意気だなユキちゃん。

由香子 生意気じゃないです。元からこんなんです。

哲二 いいから。それでこころちゃんとお茶しなつて。

由香子 いーらーなーいー。

哲二、寢室の方をじっと見つめている。

哲二 時間、かかる？

由香子 うん。すんごいかかる。

哲二 うそつけよ。

由香子 ううん、かかるよ。7時間くらい。

哲二 日付変わっちゃうじゃんよ。

由香子 だって、いいお母さんだと思われないじゃん。

哲二、こころの手紙を手にとって眺める。

哲二 いいよ。待つよ。今日だけな。

哲二、便せんで舟のようなものをつくらうとするが、うま
くいかない。

それを手にとって眺める。

哲二 女は化粧に時間がかかるからねえ。

暗転。おわり。